

透析患者さん向け学習会について

日 時：平成23年3月6日（日）11：00～13：00（受付は10：30より）

内 容：テーマ「透析患者さんと貧血について」

透析食の基本、貧血について講義、その他（食事に関するクイズ、ポスター展示など）

*昼食は会員が献立作成した透析食弁当で、事前の申し込みが必要です。

参加費：1,500円（資料代、弁当代込み）

場 所：大阪産業創造館6階・会議室E（地下鉄中央線又は堺筋線 堺筋本町）

栄養士会会員の方で関心のある方は参加できます。ただし、透析患者さんとそのご家族、透析施設スタッフを優先にしていますので、定員(80名)になった場合はご遠慮いただくことがあります。ご了承ください。

問い合わせ：明生記念病院 栄養課 納谷（なや） 06-6135-0548

必ず、部会名（勤務先）、名前、連絡先を申し出てください。

講習会 小野薬品MR 「糖尿病と新しい糖尿病治療薬」の報告

平成22年11月11日の定例会で、小野薬品のMRの方から糖尿病の新しい治療薬について話を伺いました。

世界中で糖尿病が増加し、特にアジアにおいて増加傾向が強い。アジア系の人種は農耕を主としていたために飢餓に強く飽食に弱い特徴がある。近年食生活の欧米化による脂質摂取の増加で、肥満でなくても糖尿病を発症する者が日本人に多くみられる。

2010年7月1日から糖尿病ガイドラインが新しく施行された。そこで、糖尿病の診断基準が、1回の採血でFBS126mg/dl、随時BS200mg/dl、75g OGTT2hで200mg/dl以上のいずれか1つとHbA1c6.1%となり、厳しい基準となった。

糖尿病の薬剤としては、従来のSU剤やBG剤などがあるが、近年新しいインクレチン関連薬が発売された。インクレチンとは、食事摂取に伴い消化管から分泌され、膵β細胞からのインスリン分泌を促進するホルモンである。インクレチンはグルコース濃度依存性にインスリン分泌を促すため、低血糖や体重増加などのリスクが低いと言われている。また、β細胞を保護する可能性も言われており、この薬剤によって将来糖尿病が完治することも夢ではないのかもしれない。また、服薬が1日1回の経口投与であり、服薬忘れを減らすことも出来るのではと期待されている。しかし、効果としてはHbA1c1%程度の減少であり、治療には食事療法と運動療法が基本柱であることは変わらない。

（文責 長谷川民子）